授業科目名：運動学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：小倉晃布 担当形態　　単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		

「学位授与の方針」との関係
・専門知識を用いて現場の問題を解決する（Ｂ）
・個人や社会にとって必要な課題（教育現場の問題）を解決するための方法を身につける（Ｅ）

授業の到達目標及びテーマ
（１）人間の運動を研究する方法について、自然科学的方法と人間学的方法の違いを理解する。
（２）スポーツ運動学の基本的な理論（運動感覚意識・コツ・カンなど）を理解する。
（３）スポーツ運動学を支える３つの領域（構造・発生・伝承）について理解する。
（４）スポーツ運動学の立場から、指導者に求められる専門的能力について理解する。

授業の概要
運動学とは、旧東ドイツのマイネル教授の著作「スポーツ運動学」（1960 年）がその基礎であり、運動学習や運動指導の現場に役立つ実践的な運動理論として認識されている。人間のスポーツ運動を、自然科学的立場から分析するのではなく、学習者・指導者の主観的体験内容に迫る人間学的立場から分析、統合する理論体系である。この授業では、体育教師やスポーツ指導者に求められる専門的な指導能力や指導現場で必要とされる運動学的な考察方法などについて理解を深めることをめざす。

授業計画
第１回：「運動学」とは何か（１）人間の運動研究の方法
第２回：　　（２）現場で求められる研究
第３回：スポーツ運動学の基礎理論（１）「人間の運動」と「機械の運動」
第４回：　　（２）運動感覚意識、コツ、カン
第５回：スポーツ運動学における３つの領域
第６回：動きの構造（１）運動構造とは
第７回：　　（２）運動の外的構造
第８回：　　（３）運動の内的構造
第９回：動きの発生（１）習熟位相
第１０回：　　（２）マイネルの習熟位相論
第１１回：　　（３）金子の形成位相論
第１２回：動きの指導（１）運動観察
第１３回：　　（２）運動処方

第１４回：指導者に求められている専門的能力について 第１５回：まとめ 定期試験
スクーリングでの学修内容 スポーツ運動学における基本的な考え方を概観し、自然科学的立場と人間学的立場からの人間の運動認識の違いを理解する。また、スポーツ運動学の構造・発生・伝承の各領域の考え方を学び、スポーツ指導の現場における指導者の専門的能力について理解を深める。（主に、第５回～第１３回の内容を含む。）
教科書 三木四郎：『新しい体育授業の運動学』明和出版 2005 年
参考文献 （１）教師のための運動学（監修）金子明友　（編）吉田茂・三木四郎 大修館書店 1996 年 （２）運動学講義　（編著）金子明友・朝岡正雄　大修館書店 1990 年 （３）スポーツ運動学入門　（著）金子一秀　明和出版　2015 年
学生に対する評価 レポート評価（２５％)、スクーリング評価（２５％)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。